

登録番号 第 24125 号

サンエース®箱粒剤

- 1成分で2つの作用性（メラニン生合成阻害 MBI-P と病害抵抗性修道）を持つ有効成分トルプロカルブを配合し、いもち病菌を強力にブロックします。
- 有効成分シメコナゾール配合で、紋枯病・稲こうじ病にも効果があります。
- 有効成分ピラキサルト配合で、ウンカ類を長期間防除できます。
- 有効成分クロラントラニプロール配合で、初期害虫・チョウ目害虫等を長期間防除できます。
- 側条施用でも使用できます。

| | | | |
|------|--|------|--------|
| 有効成分 | クロラントラニプロール・・・0.75% トリフルメゾピリム・・・0.75% シメコナゾール・・・4.5% トルプロカルブ・・・4.0% | 包装 | 1kg×12 |
| 性状 | 類白色細粒 | 有効年限 | 5年 |
| 毒性 | 普通物* | 危険物 | - |

*普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年3月8日付内容

| 作物名 | 適用病害虫名 | 使用量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 |
|------------|--|---|----------------|---------|-------------------------|
| 稲 (箱育苗) | いもち病 紋枯病 稲こうじ病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） ウンカ類 | 育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g | 移植3日前～ 移植当日 | 1回 | 育苗箱の 上から均一に 散布する。 |
| | ツグロヨコバイ イトメイシ イネズヅウムシ コブメガ ニカメイト フタヒコバ イトムシ | 高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g) | | | |
| 稲 | いもち病 イトメイシ イネズヅウムシ ウンカ類 | 1kg/10a | 移植時 | 1回 | 側条施用 |

| クロラントラニプロールを含む 農薬の総使用回数 | トリフルメゾピリムを含む 農薬の総使用回数 | シメコナゾールを含む 農薬の総使用回数 | トルプロカルブを含む 農薬の総使用回数 |
|----------------------------|--------------------------|-----------------------------|--|
| 1回 | 1回 | 2回以内 (移植時までの処理は 1回以内) | 2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、 無人航空機散布、 投げ入れは合計1回以内) |

使用上の注意事項

- (1) 本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
 - 1) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾糶として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
 - 2) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
 - 3) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落とすこと。
 - 4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。(2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (2) 本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
- (3) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物 (甲殻類) に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。